



絆

泉山長老
俊朝

京都第一日赤だより



人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

秋号

2018年10月発行
vol. 70

Contents

連携医療機関のご紹介	2,3
地域連携懇話会の開催報告	4
入退院支援センター開設のお知らせ	5
就任のご挨拶・診療科のご紹介	6,7
就任のご挨拶／お知らせ	8

この夏頃から、あちこちで「平成最後の・・・」という言葉が聞くようになりました。

思えば、平成の30年は、いろいろなことがありました。地球温暖化が進み、自然災害も増えました。日本経済は、バブルの破裂とともに、長期の不況に突入、リーマンショックという世界的恐慌も経験、また、人口構成も変化し、高齢化率は1/4を超えました。

医療の世界においても、技術の進歩は目覚ましく、癌は多くは治る病気になり、腹腔鏡や内視鏡の活用で手術での患者負担は大きく減りました。一方で、医療機関の機能分化で地域連携の重要性が増しています。

当院においては、20年近くに及ぶ大改築に取り組んでいたのがこの時代でありました。平成27年の駐車場

の完成で、すべての計画が完了し、新棟の運営の経験も十分に積んできた今、私たちは、地域の皆様に一層役に立ち、いざというときに頼っていただける病院づくりをめざし、新しい取組にチャレンジしようと考えています。

まず、この10月から、入退院支援センターを新たに立ち上げました。また、がんゲノム医療への取組みも強化していきますし、必要な医療機器の更新、新設にも取り組んでいきたいと思っています。手術支援ロボットの導入も検討中です。

こうした取組が実を結ぶには、「絆」読者である医療機関の皆様方とのより一層のつながりが大事だと思っています。今後とも、よろしくご指導、ご支援いただきますよう、改めてお願いします。

事務部長

田中準一

ご協力への感謝 下京西部医師会活動の

やすだ医院のご紹介と

医療法人啓生会やすだ医院を京都市南区久世で開業したのは平成10年1月です。それまで私は病院の呼吸器外科指導医として最先端の臨床研究を行ってきました。開業のきっかけは阪神淡路大震災です。被災地の神戸で災害医療活動をしていたとき思ったのは、「青果業の一人息子が医師になろうとした原点は、地域の医療にどう貢献するかということではなかったのか?」ということでした。まったく縁もゆかりもない土地でしたが、地域医療にどう尽くしていくかを自問自答しながら当院の医療スタイルを構築してきました。そこで知ったのは南区が平均寿命も健康寿命も京都市の中で最も悪い地域ということでした。喫煙率や飲酒量が最も高く、一方運動量は少ないことが原因だそうです。開業して2年目に「介護保険制度」が開始されました。将来高齢者が増え、寝たきりで在宅介護を必要とする方が多くなるので「医療保険制度」とは別に新たにできた制度です。偏屈な私は「亡くなるまで自分のことを自分でできる身体であってほしい」という逆の発想に自分の医療スタイルをとることにしました。

私が呼吸器専門医と言うことで気管支喘息や肺の生活習慣病、COPD(慢性閉塞性肺疾患)の

患者さんを多く診ております。高血圧症や糖尿病などの方も多く受診され、慢性疾患の患者さんには検査や生活指導を組み入れた「年間診療計画」を立てて配布しております。生活指導の根幹である、管理栄養士による「食事指導」、健康運動指導士による「運動療法」、そして医師と看護師による「禁煙指導」を当院では行っております。とくに禁煙指導は保険診療での「禁煙治療」開始以前から行っており、嬉しいことに開院当初からの地元久世大藪町の患者さんは全員卒業されました。生活習慣病が改善して薬を止める患者さんも多くおられます。これは医療関係者と患者さんとの協働によってなした成果と考え、患者さんに感謝です。

地域医療は一医療機関のみで行えるものではありません。開院当初から京都第一赤十字病院の先生方には大変お世話になっております。平成27年に私は一般社団法人下京西部医師会の会長に選出されました。何も分らずに会長を拝命したのですが、会長は京都第一赤十字病院の地域医療支援病院運営委員会の委員であることを初めて知りました。委員会ではご無理を申して下京西部医師会が作成運営する「診療連携カード」を採

用していただきました。救急部のみの採用ですが、患者さんがカードを持参すれば診療情報が簡潔に入力されており救急時での診療には大いに役立つと確信しております。

下京西部医師会には京都市内で唯一「救急・災害時医療委員会」を設置しております。医師会地区内では、交通量の多い道路が縦横に走り大規模な交通災害、大型ショッピングモールが数多く人災・天災、中にはテロ災害の可能性、桂川氾濫などの危険性が潜在しております。それに伴って京都第一赤十字病院救急部の先生による「トリアージ」「AED」の講習・実地訓練を行っていただきました。今後は当医師会会員とのJMATとも協力を深めたいと考えます。

現在、当医師会事務所内では京都市のモデル事業として「京都市下京区・南区在宅医療・介護連携支援センター」が昨年10月から発足しております。今後は東山区も加わったセンター事業になる予定です。それにより京都第一赤十字病院との繋がりがさらに深まってまいります。地域包括ケアシステムとの「絆」として今後ともご協力ご指導を賜りますことを心より願っております。



やすだ医院 院長
安田 雄司

	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:30~12:00	●	●	●	●	●	●	休日 日
午後 15:00~18:00	●		休		●	休	
夜間 17:00~20:00		●		●			

電話自動受付

【午前】 8:00~11:30

【午後】(月・金) 14:00~18:00

【夜間】(火・木) 15:30~19:30



〒601-8206 京都市南区久世大藪町53 TEL.075-932-5015



病診連携懇話会が平成30年7月12日(木)にハイアットリージェンシー京都で開催いたしました。今回は本会と歯科分科会を開催させていただき、昨年度を上回る多くの方々に参加いただくことができました。本会では「これからの京都第一赤十字病院」をテーマに様々な視点から講演させていただきました。歯科分科会では、地域包括支援センター、訪問看護ステーションを中心に口腔サポートセンターの活用や繋がりを促進することができました。懇親会では、会場一杯になるほどの地域の先生方、連携施設の職員方に多く参加いただき、今後の地域医療連携にとって非常に有意義な会になったと思います。多くの方に参加いただけるような病診連携懇話会を企画してまいりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

地域医療連携係長 | 小池 良典

京都第一赤十字病院 精神科(心療内科)の取り組み —総合病院の診療科としてのニーズに応えるために—

患者数が多く難治とされている身体表現性障害(身体症状症および関連症群)の薬物療法の探求と確立、それについての原著論文・総説の投稿、学会シンポジウムの企画といったオピニオンリーダーとしての役割を含む学術活動について報告しました。また、リエゾン診療の重点化、多職種チーム(精神科リエゾン・認知症ケア)の活動、せん妄の予防・治療についての院内マニュアル作成、院内採用薬におけるせん妄と関連する睡眠薬の整理の試みに関して報告しました。当科の取り組みを知っていただく機会になったとともに、「日常診療にも役立つ内容だった」とのご意見を多数いただき、嬉しく思いました。発表の機会をいただきありがとうございました。

精神科(心療内科)部長 | 名越 泰秀

歯科分科会

4名のパネリストをお招きし「シームレスな歯科・口腔ケア連携を行うための多職種連携について」パネルディスカッションをおこないました。パネリストとして、京都府歯科医師会口腔サポートセンター(KOSC)奥野博喜先生、東山口腔サポートセンター奥田啓之先生、京都市粟田地域包括支援センター高木龍宏先生、訪問看護ステーション「どんぐり」小林菜穂子先生に御参加いただきました。「職種間の意見交換」のテーマでは、独居で要介護度の低い患者さんに口腔ケアが行き届かない、医療と介護の連携が不十分、連携シートの活用はどうか、などの意見が出ました。「京都第一赤十字病院の役割について」のテーマでは、退院時にサポートセンターに依頼するシステムがあるとよい、退院時に患者さん・ご家族への口腔ケア指導をしてほしい、介護保険申請の意見書に歯科の情報が少ない、などの意見が出ました。パネリストの先生方、会場に参加していただいた皆様には厚く御礼申し上げます。

歯科口腔外科部長 | 堀 智範

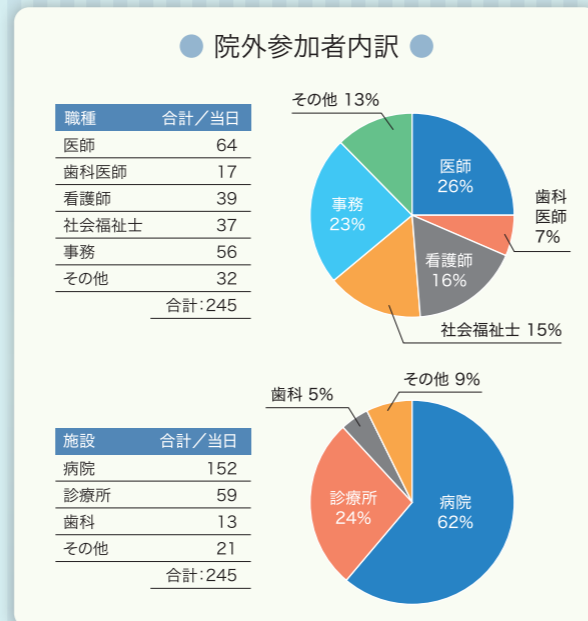
プログラム 17:30~

【本会】「これからの京都第一赤十字病院」

- 京都第一赤十字病院精神科(心療内科)の取り組み—総合病院の診療科としてのニーズに応えるために—
- 精神科(心療内科)部長 名越泰秀
- 「PFMと入退院支援センターについて」
- 副院長 福田 互
- 「医療安全対策地域連携と当院の医療安全について」
- 副院長 塩飽保博
- 「救命救急センターの新たな役割について」
- 救命救急センター長 高階謙一郎
- 「今年度の体制と取り組みについて」
- 院長 池田栄人

【分科会】「シームレスな歯科・口腔ケア連携を行うための多職種連携について」

- 京都府歯科医師会口腔サポートセンター 所員 奥野博喜 先生
- 東山口腔サポートセンター 所員 奥田啓之 先生
- 京都市粟田地域包括支援センター 高木龍宏 先生
- 訪問看護ステーション どんぐり 小林菜穂子 先生
- 京都第一赤十字病院 歯科口腔外科部長 堀 智範



10月からオープン

入退院支援センター

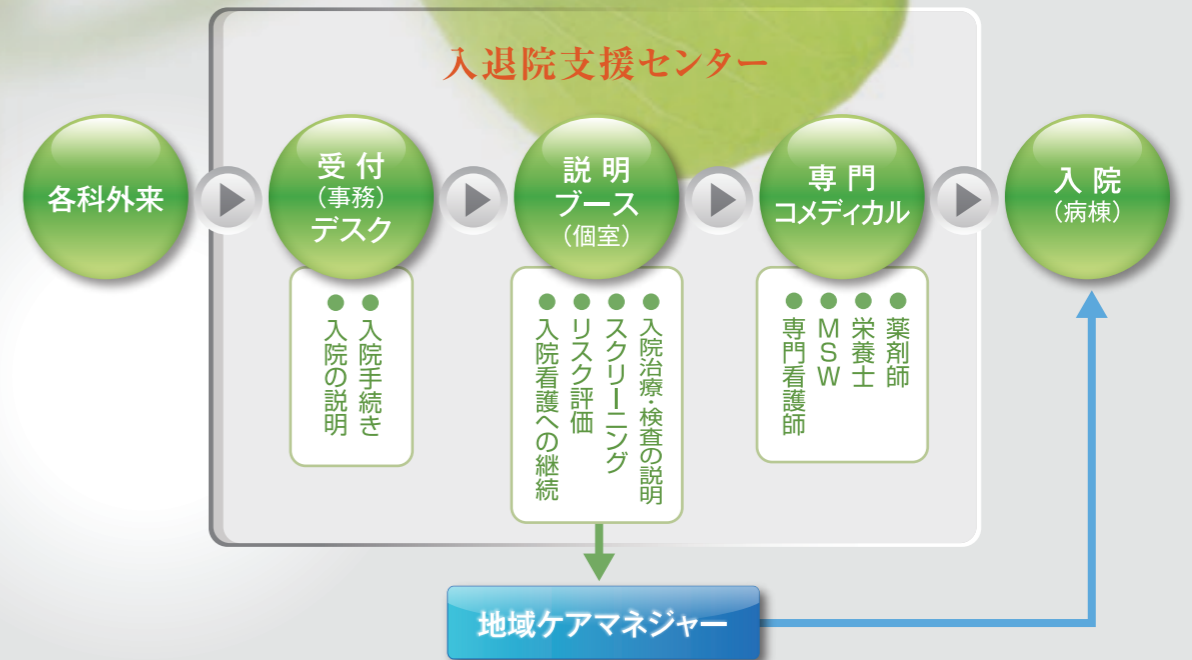
副院長 福田 互

地域包括ケア構想では、地域において患者さんの移動がいかに円滑にできるかが、鍵になります。独居の方や老々世帯の増加している昨今、このことはますます重要性を増しています。入院後のリハビリテーションや在宅支援が、適切かつすみやかに受けられなければ、患者さんの生活の質(QOL)は低下し、後遺障害を助長することにもつながりかねません。当院では、患者さんの安定した入院生活とその後の退院・転院を継続的に早期から支援するために、2018年10月3日より「入退院支援センター」をオープンしました。

「入退院支援センター」は、図のように入院が決まった時点で、入院手続き、入院生活や検査・治療の説明と同時に入院生活に必要な情報を収集、いろいろナリスクを評価し、退院後の生活における社会的な問題などを明確にして、入院したときからその対応に取り組めるように病棟や専門知識をもつコメディカルと連携、介護保険利用の方は地域のCMと連携します。これらの業務は、従来は各科外来・入院事務や入院後の病棟で行っていましたが、あちらこちらで患者さ

んにアプローチするために、手間がかかるわりに問題に対する対応が後手に回り、入院生活の延長の要因にもなっていました。これからは、これらの業務を玄関横に設置した「入退院支援センター」でできるだけ一括して行うこととなります。時間をかけず効率的に行えるよう導線に配慮し、プライバシー保持のために3室の個室も用意しました。

対象患者さんとして、当面はこれまで整形外科で行っていた手術予定の患者さんに対する「周術期PFM(患者フローマネジメント)」をほかの外科系診療科にも拡大し、内科系では短期パス入院を除く患者さん(当面、小児科・婦人科・泌尿器科・腎臓内科・血液内科は対象外となります)を中心に実施していきますが、ゆくゆくはより多くの予定入院患者さんを対象にしたいと考えています。新しく立ち上げるセンターですので、当初は想定外のトラブルや混乱などで患者さんや連携医療機関の皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、この趣旨をご理解いただき、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



耳鼻咽喉科のご紹介


部長就任のご挨拶

耳鼻咽喉科部長
山本聡



平素は格別の御厚情を賜り誠に有難うございます。耳鼻咽喉科第9代目の部長を拝命しました山本聡でございます。平成20年当院に着任してから耳疾患の診断治療に専心して参りました。お陰様で1400人を超える中耳手術を担当させて頂き、ご紹介賜りました先生方には大変お世話になり心より感謝申し上げます。これからも御恩に報いることができるように精進し、尽力して参ります。質の高い効率的な耳鼻咽喉科診療を提供するためには自己研鑽する医師の姿勢がとても大切と考えています。幸いにも高木前部長の御指導のもと薫陶を受けた為野医長、大村医長、森医師、光田医師が頼もしく成長していますのでこれからも耳鼻咽喉科一同が力を合わせて課題に取り組んで参ります。地域医療連携病院としての役割をご紹介いただいた患者さんに安心、安全かつご満足していただける外科的治療を提供することであると思います。耳疾患はこれまでどおり私が、頭頸部悪性腫瘍は為野医長と森医師、鼻疾患は大村医長、口腔咽頭喉頭嚥下疾患は光田医師が担当し専門性の高い手術治療を担えるように努力して参ります。まず喫緊の課題は外来診療のスリム化、手術や入院治療の強化と考えています。そのため外来診療担当枠の変更がありご迷惑をおかけしますが、ご意見ありますれば気軽に私までご連絡賜りますれば幸甚に存じます。新たにご紹介の患者さんのみを診察する新患担当医を設けました。これまでは新患と再診を同じ時間帯に診ていましたので患者さんの待ち時間が長く、ご迷惑をおかけすることもありました。これからは曜日に関わらず耳鼻咽喉科頭頸部領域の全疾患を新患担当医がまず丁寧に診察させて頂き、担当医に引き継ぎます。ご紹介いただいた先生方のご期待に沿えるように新患担当医と診療担当医は毎日情報共有し適切なチーム医療ができるように努めます。退院後は患者さんの状態が安定しましたらこれまでのかかりつけの先生方にスムーズにお返しさせていただけるように初診より退院、外来での経過を診療情報提供させて頂きます。当院は高度急性期医療を担う救命救急センターを有しています。耳鼻咽喉科の救急疾患についても毎日のオンコール体制を整備し迅速な診療ができるようにしています。日中は新患担当医に夜間は救命救急センターにお電話でご連絡いただけますようお願い申し上げます。まだまだ若輩者ばかりでございますが、皆で力を合わせて初心を忘れずに努力して参ります。今後とも何卒ご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。


部長
月曜 山本 聡
中耳手術担当



卒年：平成6年 医学博士

日本耳鼻咽喉科学会 専門医・指導医・補聴器相談医
日本めまい平衡医学会 めまい相談医

医長
金曜 大村 学
鼻副鼻腔手術担当




卒年：平成18年 医学博士

日本耳鼻咽喉科学会 専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本頭頸部外科学会 頭頸部がん専門医

アレルギー性鼻炎や慢性副鼻腔炎に対して内視鏡下手術をしています。患者様の症状が改善するように誠心誠意努めます。保存的治療ではコントロール困難な患者様のご紹介をお願い申し上げます。

医長
水曜 為野 仁輔
頭頸部がん手術担当




卒年：平成14年 医学博士

日本耳鼻咽喉科学会
専門医・指導医 日本がん治療認定医機構
がん治療認定医 日本頭頸部外科学会 頭頸部がん専門医

頭頸部がんの診断と治療を専門にしています。丁寧な説明と診療を心がけています。どんなことでも気軽に相談をお待ちしています。

医師
水曜 森 大地
頭頸部がん手術担当



卒年：平成22年


日本耳鼻咽喉科学会 専門医

大学院での基礎研究に引き続き、頭頸部がん専門医を目指して日々研鑽を積んでいます。学生時代は剣道部に所属し三段です。甲状腺腫瘍のご紹介をよろしく申し上げます。

新患担当医表

	月	火
	山本	担当医
水	木	金
為野・森	手術日	大村

医師
光田 順一
口腔咽頭手術 喉頭嚥下疾患担当



卒年：平成25年

耳鼻咽喉科専門医の受験を来年に控えて日々研修に励んでいます。患者様に優しい診療を心がけています。嚥下障害の診断や治療にも積極的に取り組んでいます。



就任のご挨拶



泌尿器科 副部長
田原 秀一

平成30年7月より泌尿器科の副部長を拝命しました田原秀一と申します。

私は平成14年に京都府立医科大学を卒業し同大学泌尿器科学教室に入局し、大学病院や地域の病院で研鑽を積んでおります。大学院では癌幹細胞の研究や前立腺癌のバイオマーカーの研究をしており、前立腺癌などの泌尿器腫瘍領域に興味をもって診療をしております。

最近ロボット手術についてテレビでもよく取り上げられておりますが、当院でもようやくロボット支援手術システムが導入されることが決定し、来年度には運用開始されそうです。特に前立腺癌や

腎癌の患者様にはより質の高い医療を提供させていただけるよう尽力させていただきますので、今後ともよろしくご挨拶申し上げます。

前病院では開業医訪問なども行っており、病診連携については今後も積極的に関わっていきたくて考えております。排尿障害など慢性疾患で落ち着いた患者様は近隣の開業医の先生に積極的に逆紹介させて頂いております。今後も泌尿器科スタッフ一同一丸となって地域の急性期病院としての責務を果たしていきたいと考えておりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

お知らせ - Information -

「日本消化器病学会 近畿支部第110回例会」

【日時】平成31年2月23日(土)

【会場】京都テルサ <非会員の方も是非お越し下さい。>

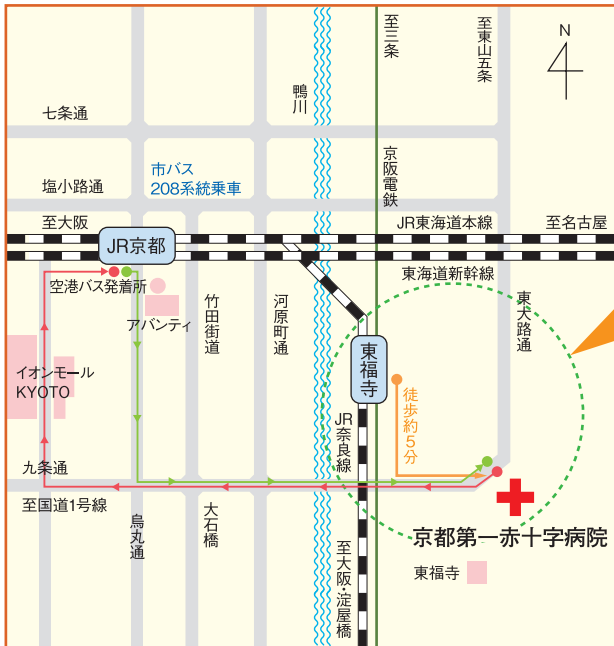
「第5回東福寺腎臓勉強会」

【日時】平成30年11月17日(土)

【会場】Four Seasons Hotel Kyoto「山桜・小松の間」

Access to Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

当院へのアクセス



電車をご利用の場合

JR奈良線、京阪電鉄…「東福寺」駅下車、徒歩5分

バスをご利用の場合

市バス202、207、208系統「東福寺」バス停で下車

車をご利用の場合

【奈良、大阪方面から】…京都南IC出口、国道1号線を北へ約2.5キロ京阪国道口を東(右折)へ、九条通りを約2.5キロ

【山科、大津方面から】…国道1号線を西進、東山五条交差点を南(左折)へ、東大路通りを約2キロ

【京都駅付近から】…竹田街道を南へ約500メートル、大石橋交差点を東(左折)へ九条通りを約500メートル

無料シャトルタクシー運行のご案内【JR京都駅八条口⇨病院(地下鉄九条駅経由)】

	八条口発 病院行き	病院発 八条口行き
始発便	7:45 次発 8:10、以降30分間隔で運行	9:00 以降30分間隔で運行
最終便	16:10	16:00

※12:40八条口発の便は運行していません。 ※12:30病院発の便は運行していません。

※交通状況により時刻に遅れが生じる場合があります。
※運行は平日のみとなります。土・日・祝日等病院の休診日は運行いたしません。
※定員9名のため満員の場合は次の便をご利用ください。

京都第一赤十字病院

京都市東山区本町15-749 TEL.075-561-1121

地域医療連携室 【直通】TEL.075-533-1280
FAX.075-533-1282